体験型ワークショップ2

『みんなでつくる音の輪(和)—音楽づくり体験ワークショップ—』

◇日時と講師

日 時：2010年9月11日(土) 16:00～18:00

講 師：松尾祐孝(洗足学園音楽大学)

アシスタント：本原琴美(おきなわ発達研究会)

◇企画の趣旨と概要

「子どもたちのための音楽創作」を体験し実習できるワークショップを開催した。各自が思い思いに持ち寄った個性的な楽器を使って、ひとりひとりのイメージを大事にしなが、みんなのアイデアと五感を集中させて、大きな1つの作品を完成していく。ひとりひとりの音をつないでつくる音の輪が、幾重にもかさなると、1つの作品になる。

参加者は、自分の声や体を含めて、「自分で簡単に持ち運びできる楽器・音具」、「自分を表現しやすい楽器・音具」、あるいは「自分で作った楽器・音具」を事前に1つ準備し、それを使って音楽創作を試みた。そして、音楽づくりでは、「ロング・トーン」の長く伸ばす音や、「同音連打」の細かいリズムの組み合わせを、繰り返しながら変化させて、その瞬間瞬間に感じたイメージを会話をするように音で語っていった。このワークショップを通じて、参加者たちは、出会った仲間とともに、1つの物語や絵画を表現するように、表情豊かに音が語りだす協創、協力と創造のひとつときを体感した。

◇講師からのメッセージ

この「音楽づくり」は、単なる音楽教育の領域にとどまらず、極めて高度なコミュニケーション能力の形成に直結しているのではないのでしょうか。「その場で、知恵を絞ってみんなで考えて1つのパフォーマンスを創っていく」という極めて総合的な経験を短時間に共有する濃厚な時間は、子どもの心の成長を促し、また大きな達成感をもたらしてくれます。私は、現代社会の核家族化や少子化の問題が指摘されて既に久しい今日において、「音楽づくり」の実践の普及拡大が、子どもたちの「社会を生き抜く力」を育成するための大きな力になると、確信しているのです。どうぞ、皆さんも一緒に、まずは体験してみましょう！

ワークショップでは、持ち寄っていただいた楽器(音具・物…、例えば石ころだって2つ合わせて叩けば音が鳴ります)や声や身体(身振り、演技、ボディーパーカッション…)を使って、楽しいひとときをご一緒しましょう。最初に、心と身体をほぐす導入＝アイスブレイク、次に私のリードで全員による集団即興、そしていよいよ「音楽づくり体験」と進めていきます。その場で提示される“お題”を創作テーマとして、自分たちの世界で(宇宙で)1つの音楽パフォーマンスを創造していきます。“案ずるより生むがやすし”，きっと何か凄いことが湧き起こりますよ！そして最後に、“音楽づくり”と「鑑賞」の連系も交えながら総括する予定です。では、当日にお目にかかれることを楽しみに。(まつおまさたか)

◇参考文献

- 1) 松尾祐孝・佐藤昌弘・坪能克裕 共著『“音楽づくり”ワークショップを楽しむために』マザーアース, 2007.
- 2) 日本現代音楽協会[現代音楽教育プログラム研究会]編『“音楽づくり”ワークショップを楽しむためにII』マザーアース, 2007.
- 3) 松尾祐孝『現代の日本音楽 第19集』(楽譜・CD・論説), 春秋社, 2007.
- 4) 澤田篤子, 松尾祐孝ほか『日本の伝統文化の特質に基づく音楽教材の現代化—一学校音楽教育および音楽教員養成において—』洗足学園音楽大学, 2005～2007.

◇参考楽曲

- 1) 松尾祐孝《DISTRACTION(錯乱)》(楽譜:「クラリネットのための2つの小品」収録/全音刊)
- 2) 松尾祐孝《ディストラクションIV～トランペットとピアノの為に》
- 3) ベートーヴェン《交響曲第5番ハ短調》